

# アルミニスクラップ相場 更に上昇も

## タイト感やLMEアルミ堅調で

橋本金属  
・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

### 【概況】

十二月前半は前月発生したドバイショックの不安が残るもアブダビによる資金援助などを受けて不安後退、十一月の米雇用統計の改善や中国鉱工業生産指数を好感、強気の幕開けとなった。後半も好調な米指標からの金利早期引き上げ懸念をFOMC声明で否定したことから、商品市場に過剰流動資金が流入、LMEアルミも二、二五〇ドル近辺まで上昇した。アルミスクラップは各メーカーとも年末要因があったものの、年初のスクラップ収集合戦を危惧、ついに一〇円程度の上げに踏み切った。

### 【十一月のマクロ指標】

日本自動車工業会発表によると、自動車生産台数は前月比四・七％増の八五万九、六七七台（前年の前月比一六％減）。

また国土交通省発表の新設住宅着工戸数は、同一・八％増の六万八、一九八戸数であった（前年の前月比八・五％減）。

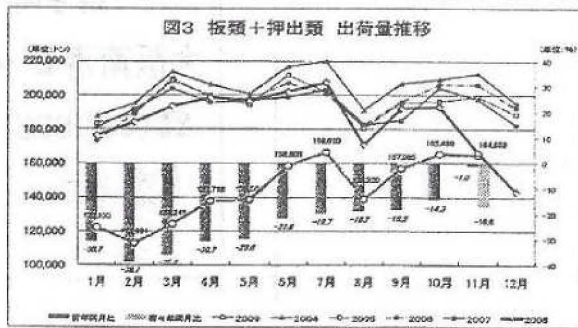
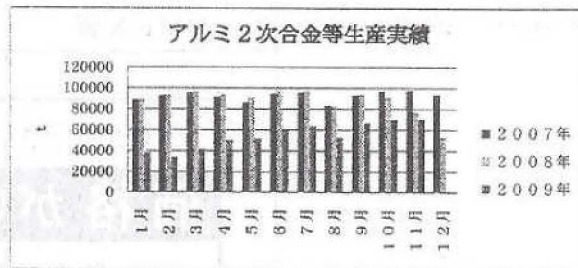
次に貿易関連指標は、財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金前月比四三％減の七七トン、二次合金は同一・七％減の一、九七二トン、スクラップは同一〇・六％増の八、九一八トン。

輸入は新地金が前月比一三％減の一、二万一、五四〇トン、二次合金が六・二％増の七万三、九五五トン、アルミスクラップは二二・六％減の三七八トン、二次合金原料としての需要が多い、合金スクラップ二一・六％減の四、四七八トンであった。

### 【十一月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比〇・八％増の一六万五、五五三トン（前年同月比一〇％減）。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比〇・八％増の七万〇、二七八トンであった（前年の前月比一六％減）。



### 【見通し】

一月の見通しは、LME価格の上昇とメーカーの需要先行き懸念の購入抑制から、輸出増・輸入減のシナリオとなった。ところが自動車生産台数も前月比四・七％増、三カ月連続で板・押出し材・新設住宅数とも前月比で上昇し、回復感が台頭。

LME価格について米金融緩和プログラムを引き締めが予定通り開始されれば、下落のリスクはあるが、二月の旧正月明けの中国期待から二、三〇〇ドル台の維持を予測。価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては一月六日現在で前月比一〇〜二〇円と大幅上昇！

ただ国内原料はほとんどなく、また上海シグマ、ロシア塊、等の輸入も手当てが難しいことから原料争奪戦が勃発、一月前半比で、さらに五円上昇の予測。

